



安心安全で、環境にやさしく、
サステナブルな住いづくりと暮らしの実現に貢献します。

一般財団法人
BETTER LIVING **ベターリビング**

報道関係各位

2015年1月20日

一般財団法人ベターリビング

“部分断熱リフォーム”が高齢者の“健康”に好影響 3年間に及ぶ実証実験でその相関を実証

一般財団法人ベターリビング（理事長：那珂正 住所：東京都千代田区）は、高齢期にご自身の住まいで安心して暮らす為の一助となるよう2011年度より「健康長寿住宅エビデンス取得委員会」を設立し、部分断熱リフォームが高齢者の“健康”に良い影響を与えることを実証^{※1}しました。

※1：長期にわたり、実験住宅（施設）などではなく、実際にお住まいになられている住宅約40軒を対象

本研究は、住まいの暖かさの改善が居住者の健康状態にどう影響するかを直接的に捉える事を目的に2011年より研究を行ってきました。国の政策でも、ストック住宅の断熱改修は省エネ化促進の為に急務といわれていますが、「健康長寿住宅エビデンス取得委員会」では、“健康”との相関を明らかにすることで、ストック住宅の断熱化が高齢者の健康寿命を延伸させる為にも有効であることを科学的に証明しました。

また、今回の実証実験の結果は、実験施設やモデルハウスなど、実証試験のための施設などで短期的に行う検証ではなく、住み慣れた実際のお住まいを長期にわたり断熱改修前後を検証したこと、さらに、大規模な工事と大きな改修費用を伴う家全体の断熱リフォームではなく、リビングやダイニングだけなど、日常生活の中で利用頻度の高い部屋だけを改修する比較的小規模な断熱改修で検証したことにより、需要の高い“部分断熱リフォーム”の効果として、業界を通じて広く一般に訴求できる結果であると期待しています。

■主な調査結果

①断熱リフォームにより収縮期血圧、平均血圧の値が有意に低下しました。

実証実験の結果、断熱リフォーム後はリフォーム前と比べて日中（午前8時から午後9時まで）の収縮期血圧、平均血圧の値が有意に低下することがわかりました。

②断熱リフォームにより「起床後の血圧上昇」^{※2}が抑制されました。

断熱リフォーム後の温熱環境改善度を2群に分けたところ、改善度が高い群において、「起床後の血圧上昇」が有意に抑制されていることがわかりました。

※2：医学的にはモーニングサージという。ここでは、次のように定義して計算した。

「起床後の血圧上昇」＝「起床後2時間の平均収縮期血圧」－「起床前（＝睡眠中）最低値と前後1時間の平均収縮期血圧」

●調査概要

断熱リフォームの前後による健康指標の改善効果を明らかにするべく、2011年度より39軒、53人の高齢者の協力を得て実証実験を行いました。リフォーム前と後では血圧および健康や温度感覚に関するアンケートを実施。尚、本研究では血圧をもっとも重要な指標と位置付けて、ある1日の30分ごと24時間測定する方法と、4週間毎日5回（起床後、毎食後、就寝前）自己測定する方法の2種類を用いました。

（参考）最終成果の報告会

3年間の実証実験から得られた最終成果の報告会を実施します。（事前申込制）

日時：2015年3月5日（木）13時15分

会場：住宅金融支援機構（東京都文京区、JR水道橋駅徒歩3分）1階すまい・るホール

今回実施されることとなった「省エネ住宅ポイント制度」で対象となるリフォームには、実証実験で実施したような「部分断熱リフォーム」も含まれることとなりました。私たちは今後もこうした研究を通じて、サステナブルな住まいと暮らしの実現に向けて貢献してまいります。

<本件に関するお問合せ先>

一般財団法人ベターリビング サステナブル居住研究センター 永野・瀧口 TEL: 03-5211-0585

<参考資料>

健康長寿住宅エビデンス取得委員会の概要

私どもは、複数の医療系・建築系学識者および民間企業からなる研究委員会で、平成23年度より研究活動を実施しています。住宅の環境とそこに住む居住者の健康との間には密接な関係があると思われませんが、今まであまり多くの証拠はありませんでした。そこで、今回の調査研究では、特に住宅の温熱環境と高齢者の健康の関係について着目し、データを収集しています。「暖かな住宅は、高齢者の健康に良い」という事柄が、科学的な根拠をもって立証できれば、超高齢社会を迎える日本の課題解決の一助になると確信しています。

委員会組織構成 (2014年度 構成 敬称略)

委員長：高橋 龍太郎
(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 副所長)

副委員長：坂本 雄三
(独立行政法人建築研究所 理事長)

委員：稲葉 裕
(順天堂大学 名誉教授)

齋藤 宏昭
(足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系 准教授)

都築 和代
(独立行政法人産業技術総合研究所 ヒューマンライフ
テクノロジー研究部門 環境適応研究グループ グループ長)

参加企業 (2014年度)

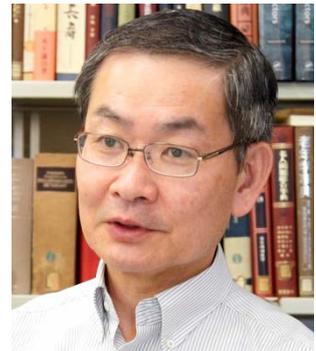
アキレス株式会社 旭化成建材株式会社
旭ファイバーグラス株式会社 アズビル株式会社 東京ガス株式会社
株式会社 LIXIL 株式会社リプラン

オブザーバー

一般財団法人高齢者住宅財団

高橋 龍太郎 (たかはし・りゅうたろう)

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 副所長
老年学、老年医学専攻。京都大学医学部卒業後、東京都老人医療センター(現・東京都健康長寿医療センター)に勤務。厚生労働科学研究事業「高齢者に対する適切な医療提供」の研究班、健康長寿住宅エビデンス取得委員会委員長を務めるなど30年以上、高齢者の健康生活、自立支援に関する臨床と研究に従事。ヒートショック研究の第一人者としても活躍している。



一般財団法人ベターリビングは、国民の住宅に対するニーズが量から質へ変化しつつあった1973年に、建設大臣の許可を得て設立されました。以来、優良な住宅部品の開発・普及を中心として、住生活水準の向上に資することを目的としたさまざまな活動を進めてきました。活動の柱となっている「優良住宅部品認定事業」等を実施するとともに、調査研究や技術開発、およびこれらの成果の普及・広報活動、各種情報提供、さらに「つくば建築試験研究センター」や住宅および住宅部品に関するあらゆる基準への適合性を評価し、認証を行うなど、住宅に関する広範な事業を展開しています。今後、急速に進む高齢化への対応、個々人の価値観の変化、さらには、ISO基準の普及・拡大、地球環境問題への取り組みなど、「国際規格」を用いた対応が迫られています。このような状況下、当財団は、一般社団法人リビングアメニティ協会などの関係団体と連携し、ゆとりある住生活の実現に向け、これからもさまざまな事業を通じて、積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

事務局

一般財団法人ベターリビング サステナブル居住研究センター
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング4階
TEL:03-5211-0585

「住まいと健康」を考えるシンポジウム

実証実験成果報告会



このイベントは、「リフォームで生活向上プロジェクト（後援：国土交通省・経済産業省）」の趣旨に賛同して開催するものです

平成23年度より4年間に亘り、39軒50数名を対象として、実際に高齢者がお住まいになられている築20年以上の住宅を断熱リフォームし、改修前と改修1年後の健康指標の変化を検証しました。第一部では、医学及び建築の学識者より、科学的な実証実験結果をもとに、「暖かな住宅は、高齢者の健康に良い」ことを報告します。第二部では、実証実験成果を踏まえ、健康向上に資する断熱リフォームを広めるために必要なことについてパネルディスカッション形式により議論します。

日時

平成
27年 **3月5日(木)**
13時15分～16時30分
(開場12時45分)

申し込み

定員200名。参加費無料。
先着順・事前登録制
entry35@cbl.or.jpへ、「ご所属」「参加人数」「参加者全員の氏名・ふりがな」「住所」「連絡先電話番号」「メールアドレス」を送信ください。
FAXの場合は、裏面に記入の上03-5211-1056へ。

会場

住宅金融支援機構 本店1階

すまい・るホール

東京都文京区後楽 1-4-10

主催：健康長寿住宅エビデンス取得委員会
一般財団法人ベターリビング
後援：(予定)国土交通省、厚生労働省

※CPD認定プログラム(予定)

●プログラム(敬称略)

※変更の可能性があります

- | | |
|-------|---|
| 12:45 | 受付開始 |
| 13:15 | 開会あいさつ |
| 13:35 | 第一部 実証実験成果の報告 (75分)
高橋 龍太郎(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 副所長)
齋藤 宏昭(足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系 准教授)
小川 まどか(北海道大学大学院工学研究室空間性能システム部門環境人間工学研究室 特任助教)
モデレーター：安達 功(日経BP社 日経BPインフラ総合研究所長 執行役員) |
| 15:05 | 第二部 実証実験成果をどう評価するか～パネルディスカッション～ (80分)
◆コーディネーター
坂本 雄三(独立行政法人 建築研究所 理事長)
◆パネラー
高橋 龍太郎(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 副所長)
都築 和代(独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 環境適応研究グループグループ長)
小山 貴史(一般社団法人JBN 環境委員会副委員長)
安達 功(日経BP社 日経BPインフラ総合研究所長 執行役員)
厚生労働省 健康局 がん対策・健康増進課 担当官
国土交通省 住宅局 住宅生産課 担当官 |
| 16:25 | 閉会 |

必要事項をご記入の上、下記の番号宛にemailまたはFAXしてください。

CPDを申請される
方は、当日受付
にCPD番号をお
知らせください

ふりがな		
お名前(代表者)		
所属・役職名		
ご連絡先	〒	
	TEL	FAX

参加者ご氏名・ご所属	
ご氏名	ご所属
参加人数	(代表者含め) 計 人



個人情報、本シンポジウムを円滑に実施するために必要な場合に限って利用します。

お申し込みは下記宛てにemailまたはFAXしてください。

email entry35@cbl.or.jp FAX 03-5211-1056

健康長寿住宅エビデンス取得委員会の概要

私どもは、複数の医療系・建築系学識者および民間企業からなる研究委員会で、平成23年度より研究活動を実施しています。住宅の環境とそこに住む居住者の健康との間には密接な関係があると思われませんが、今まであまり多くの証拠はありませんでした。そこで、今回の調査研究では、特に住宅の温熱環境と高齢者の健康の関係について着目し、データを収集しています。「暖かな住宅は、高齢者の健康に良い」という事柄が、科学的な根拠をもって立証できれば、超高齢社会を迎える日本の課題解決の一助になると確信しています。

委員会組織構成 (2014年度 構成 敬称略)

- 委員長**：高橋 龍太郎
(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 副所長)
- 副委員長**：坂本 雄三
(独立行政法人建築研究所 理事長)
- 委員**：稲葉 裕
(順天堂大学 名誉教授)
- 齋藤 宏昭
(足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系 准教授)
- 都築 和代
(独立行政法人産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 環境適応研究グループ グループ長)

参加企業
(2014年度)

アキレス株式会社 旭化成建材株式会社
 旭ファイバーグラス株式会社 アズビル株式会社 東京ガス株式会社
 株式会社 LIXIL 株式会社リプラン

オブサーバー

一般財団法人高齢者住宅財団

事務局

一般財団法人ベターリビング サステナブル居住研究センター
 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング4階
 TEL:03-5211-0585

一般財団法人 **ベターリビング**